

魚沼サテライトシンポジウムの開催について

平成24年10月11日(木)魚沼市小出郷文化会館において All Together Better Health VI(以下 ATBH VI とする)のサテライトシンポジウムが開催された。またそれに先立つ10日(水)には医学科第2講義室において英国専門家を交えた多職種連携教育の講演会が開催された。ATBH とは世界保健医療福祉連携教育学会の略称であり、その第6回目の世界大会として ATBH VI が神戸学院大学(神戸市)を会場として10月5日(金)~10月8日(月)の日程で開催されたのだ。今回、当講座ではそのサテライトシンポジウムと、それに先立つミニ講演会を、サテライトシンポジウムは当講座が現在、地域医療臨床実習を行っている県立小出病院を中心とした魚沼市で、またミニ講演会は大学の講義室において行うことを企画し、総合地域医療学講座特任教授井口清太郎が実行委員長となって開催した。またこれらの企画には英国を中心に多職種連携教育を進めている英国専門職連携教育推進センターの Prof. Hugh Barr、英国 Leicester 大学の Dr. Elizabeth Anderson、英国 Suffolk 大学の Prof. Mike Saks、同 Prof. Brendon Noble の4名の専門家を招いた。

まず10日(水)は午後5時30分より医学部第2講義室に於いて、医学科5年次生による多職種連携教育の実際について英語によるプレゼンテーションを、次いで Dr. Anderson による「Doctors as leaders and followers in health and social care teams: The place of interprofessional education」と題する講演が行われた。

翌11日は、第1セッションでは一般向け公開講座が開催された。「魚沼で医療を育てる」とのテーマのもとに井口特任教授を含めて3名の演者が市民向けに魚沼における地域医療の新しい試みなどについて話をした。この一般向けセッションには200名近い参加者があり、多くの市民が地域医療教育に向けて関心を持っている様子がうかがわれた。

次いで第2セッションでは国際学術集会としてポスターセッションが井口特任教授の座長のもと開催された。テーマは「高齢社会でどのように専門職種連携やその教育を行っているか」とするものであり、新潟県内を始め、様々な地域で活躍している様々な立場の専門職から発表をしてもらった。これらは全て同時通訳が配され、英国の専門家にも内容が伝えられた。

その後、第3セッションとして英国専門家によるショートスピーチ、ミニレ

クチャーが同時通訳の元で行われた。魚沼地域で行われている多職種連携教育の実際を見てもらう中で、地域の先進的な様子を伝えることができたのではないかと思われた。